

覚え書きから物語へ ——Nonfiction to Fiction



谷口由美子

『大草原の小さな家』といえば、かなりの人が、おてんばで明るい少女ローラの姿を思い浮かべるのではないだろうか。だが、そのローラが実在の人物であり、『大草原の小さな家』を書いた作家であり、さらにその物語は彼女の自伝的な物語であることまでは意外に知られていないかもしれない。

2014年11月、アメリカの小さな地方学術出版社から、ある1冊の本が出され、それはまたたく間にニューヨークタイムズのベストセラーとなった。その本の著者はローラ・インガルス・ワイルダー。没後57年もたって、初めて出版された本である。

ローラが書いた物語は『大草原の小さな家』など10冊の「小さな家シリーズ」と呼ばれるもので、アメリカ児童文学の古典と目されるすばらしい作品だが、今回新たに出版されたのは、ローラがそのシリーズを書く前に書き記した覚え書き“Pioneer Girl”に、ローラ研究家のパメラ・スミス・ヒルが詳しい解説・注釈を加えた大著 *Pioneer Girl: The Annotated Autobiography* である。

このほど幸運なことに、大修館書店からその訳書を出すことになった。表紙絵には、湖のほとりで髪を風になぶらせている、かわいいローラが描かれているので、絵本のように見えるかもしれないが、本を開けば、ローラの覚え書きに詳しい注がつき、写真やイラストが入った、ローラ・ファン

が初めて味わう物語世界が広がっているのだ。

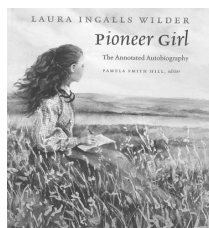
では、それほど貴重な覚え書きがなぜ今になって初めて出されたのだろうか？ この本の解説・注釈者パメラ・スミス・ヒ

ルの言葉を借りて説明しよう。「この覚え書きは、子どもが大人へと成長するさまや経験を、大人の視点から語った、大人のための年代記だったが、ワイルダー（ローラ）はそれを子どものためのフィクションとして再創造したのである……娘レインは、ワイルダーを子どものための物語作家として育て上げ、この覚え書きの中に、子どもたちが好み、おもしろがる話が盛り込まれているのを見抜いた。それが作家レインの功績であり、母への贈り物だった」

母ワイルダーと娘レインは、覚え書きを下敷きにし、協力して「小さな家シリーズ」を創りあげた。その過程がつぶさに説明されていることも、本書の大きな特色だ。注釈者ヒルはいう。「この覚え書きを本としてこのたび出版するのは、ワイルダーの創造力がいかに進化したかが、刮目に値するものだからである」

覚え書きで、五歳のローラは、姉メアリに、自分の金髪のほうが、茶色のローラの髪よりきれいだといわれ、腹が立って思わずメアリの顔をたたいてしまった。父にそれをとがめられ、ローラはしくしく泣くのだが、物語の父はローラをやさしく抱きかかえ、いった。「とうさんの毛は茶色だよ」この結末は fiction である。ワイルダーが作家としてこのエピソードにこのようなすてきな結末を与える自由を得たのは、物語が nonfiction ではなく、fiction だからなのだ。

今年2017年は、ローラの生誕150周年。本書を多くのローラ・ファンに知っていただくための講演会はもとより、来年2018年2月～3月に銀座・教文館のナルニア国で開催される「『大草原のローラ物語：Pioneer Girl』の世界」展を皮切りに、ローラ生誕150周年記念展が各地で開かれる予定である。ご期待いただきたい。
(たにぐち ゆみこ・翻訳家)



原著のカバー

格段にわかりやすくなった 『ベーシックジーニアス英和 辞典 第2版』

原川博善



■くり返し、引いて、読んでほしい

今は紙の辞書と電子媒体の辞書が利用できる時代。私の若い頃はもちろん紙辞書のみ。初めて手にした時の感触、紙のにおい、やる気が湧いたことを思い出します。

この頃は、はじめから電子媒体の辞書を使う生徒も多いと聞きます。しかし、まずは紙辞書から始めてほしいものです。紙の辞書には、ページが一覧できる良さがあり、下線を引き、余白に書き込み、付箋をつけるなど学びの跡が記録でき、身につくことが実感されます。電子媒体辞書はあるレベルに達してから使えば一層習得がすすむでしょう。

この辞書で、辞書の引き方と引いて学ぶ楽しさをぜひ生徒にお伝えください。ページが反りかえるほど読み込む生徒が現われることを願っております。

■改訂のねらい

改訂の主なねらいは次の5点です。

1. 収録語彙と語の重要度表示の見直し
2. 語のイメージをつかみやすくするための工夫
3. 語義区分の見直し・用例の刷新
4. 見やすい紙面
5. 充実した関連情報と巻末付録

■「英語学習の旅」のガイドブック

学習用辞書には必要な語彙とその情報（つづり、発音、語形変化、品詞、語義、文法的特徴、用例など）が過不足なくわかりやすく記述されてい

ることが求められます。

そこで、収録語彙を全面的に見直し、現在の英語を正しく反映するようにアップデートしました。併せて語の重要度表示を初版の3段階から5段階に変更して習得レベルを明確にしました（詳しくは関山健治（pp.6-7）参照）。

「見やすい」レイアウトで、「わかりやすく」書かれていることが親しみをおぼえる上で大切です。重要語、重要語義や品詞記号、語義番号、カタカナ表記の第1アクセントなどに太字、色文字を用い、随所にコラムを配置して、格段に見やすい紙面になりました。

■入門期の辞書指導

「英語学習の旅」のガイド役として、辞書の使い方と早く引くコツがわかる「英語の入口」を設けました。まずここを生徒とお読みください。使い方がわかれば、生徒は使う習慣も身につけて、効果的に楽しく学習できるでしょう。

■語のイメージをつかむ

意味のわからない単語に出会うと見出しのすぐ近くに挙げられた第1語義しか確認せず、文の意味がとれなくなる生徒がみられます。

特に複数の重要語義や品詞がある重要語については「ベーシック単語カード」という欄を設けました。最初にここを確認することで、単語が1つの訳語だけでなく、様々な意味と使い方を持つものであることを確認できるでしょう。

また、前置詞、動詞などに基本的な意味がイメ

ージできるイラストを添えました（これらに関しては畠山利一（pp.4-5）参照）。

■一歩踏み込んで

意味のよく似た語や表現に出会うと、その違いや使い方をもっと知りたいという気になるものです。授業を先に進めたい思いを抑えて生徒と一緒に辞書で確かめることがあるかと思います。そのようなときに活かせるコラムとして、【似た語】【使い方】（下図①）、【使い分け】（同②）、【ここに注目！】（本誌 p. 13）などを随所に設けています。

■関連情報、文化背景を知る楽しさ

語の文化背景、日英語のずれなど、語に関するいろいろなことがらを知ることで、外国語学習が単に言葉を学ぶ以上の異文化理解にもつながるでしょう。【文化】（下図③④）、【表現】（同⑤）、【関

連】（同⑥）、【事情】（同⑦）などのコラムで扱っています。

また、語の関連性を気づかせるコラムとして【Quiz!】（本誌 p. 9）、【なるほど単語情報】（下図⑧）、【一緒に覚えよう！】（本誌 p. 12）なども掲載しています。

■発信に役立つ情報

用例は、やさしい語と構文で具体的にイメージできるもの、また生徒の生活に身近な話題を取り入れました。実際に使える短い対話例を数多く挙げました。巻末付録「和英小辞典」を発信の補助ツールとしてご活用ください（p. 10参照）。

このようにさまざまな工夫、情報が満載の『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』は、生徒の興味と学習意欲を大いに刺激するものと確信しています。（はらかわ ひろよし・元平安女学院大学短期大学部教授）

◆『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』の多彩なコラム◆

①〈使い方〉

【forget】

■**使い方** 「置き忘れた」は I left my textbook in the library. (教科書を図書館に忘れた)と leave を用いる。場所を示さないで単に「忘れた」は I forgot my textbook. (教科書を忘れた)のように forget を用いる。

②〈使い分け〉

【excuse】

■**使い分け** ▶「許す」

excuse ささいな過ちや失礼を許す
forgive 重大な過失を非難しないで許す

③〈文化の背景〉

【thirteen】

■**文化** キリストの最後の晩餐(Ⓔ)のとき、人数が13人だったことから、縁起が悪く、死・破壊・不幸を意味する数と見なし、病院・ホテルなどでは部屋番号から13を除くことがある。

④〈文化の背景〉

【sneeze】

■**文化** (1) くしゃみの音の「はくしょん!」は英語では Atchoo! などと表す。
(2) 英米では、昔の言い伝えでくしゃみは神からの警告の合図とされることから、くしゃみをした人は Bless [God bless] you! (神のご加護を!)と言われることがある。「お大事に!」くらいのあいさつで、言われた人は Thank you. と答えるのがふつう。

⑤〈日英語のずれ〉

【service】

■**表現** **service と「サービス」**
service には日本語「サービス」の「おまけ」「値引き」の意味はない。それらの意味で次のように service を使わずに表現する。
・When I bought five potatoes at the store, they gave me one more for free. その店でジャガイモを5個買ったから1個サービスしてくれた [= もう1個ただでくれた]。

⑥〈関連表現〉

【taste】

■**関連** **味の形容詞**
salty 塩辛い
sweet 甘い
bitter 苦い
sour すっぱい
hot (香辛料が効いて)辛い

⑦〈米英事情〉

【address】

■**事情** **住所の書き方** 米英の住所は、戸番、通りの名、都市名、州名、郵便番号((米) zip code, (英) postcode)の順に書く。例: 125 Fifth Avenue, New York, NY 10010

⑧〈単語の知識〉

【onion と union】

■**なるほど単語情報**
onion と union onion 「タマネギ」は、「結合」「(国々の)連邦」など1つにまとまることを意味する union と同じ語源。タマネギはいくつもの層が1つにまとまった形になっているから。

学習進度に合った 使いやすさの工夫

——『ジーニアス英和辞典 第5版』と比べて

畠山利一



■はじめに

辞書は学力に合ったものを使わないと十分に役に立ちません。このたび改訂された『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』(BG2)は中学上級から高校初級の学習者を想定して編集されています。より上のレベルの学習者を対象とする『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5)とは多くの点で異なっています。

BG2は、より見やすく、使いやすい辞書になるようさまざまな工夫をこらしています。G5と比較しながら BG2の特色を見ていきましょう。

■語義をまとめる

辞書には語義を大きくまとめるタイプと細かく区分するタイプがあります。BG2は大きくまとめています。この辞書では語義を細分するよりは大きく意味をとらえることが重要だとの考えにより、例えば accurate では G5は4つの語義があります。

- 1 <情報・計算などが> 正確な、間違いのない。
- 2 <数字などが> 正確な。
- 3 <機器が> 精密な。
- 4 <武器・射手が> 標的をとらえる、正確な。

BG2ではこれを1つにまとめています。

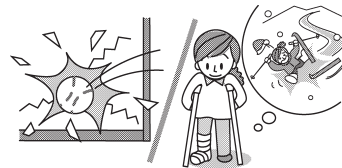
正確な、間違いのない；<計器などが> 精密な。

ここで大事なことは、語義数は少なくなくても内容は大きく減少していないことです。語義数が

減って中身もやせてしまっただけではありません。語義のコア部分を保持しながら、細かな違いにこだわらず、大きく語のイメージをとらえることができるでしょう。

■イラストによる解説

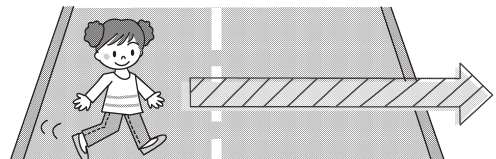
語義をイラスト化すると印象に残りやすい。BG2の特色の1つは基本語の図版が多いことです。例えばBG2のbreakでは「break a window 窓ガラスを割る」、「She broke her leg when she was skiing. 彼女はスキー中に脚を骨折した」という用例に下のようなイラストを付けています。breakが日本語の「割る」の意味にも「折る」の意味にもなることが一目で分かります。



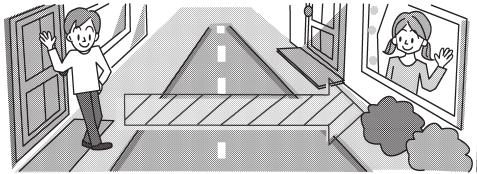
単に語義を図で示すだけではなく、できるだけ語の全体の意味をつかめる基本義を図版化するように心掛けました。また日常の身近な場面を設定して、すぐ使える表現をイメージごと覚えられるようにしています。

across では用例に次のイラストを付けました。

- ・ go across the road 道路を横断する。



• Susie lives **across** the street from Tom. スージーはトムの家と通りをはさんで向こう側に住んでいる。



この2つのイラストを見ることによって「…を横切って」と「…の向こう側に」の意味が理解しやすくなるでしょう。

■ベーシック単語カード

BG2は重要語に「ベーシック単語カード」を置いています。下は change にあるものです。

動 …を変える, …を取り換える, **変わる**
図 変化, 交換, つり銭
よく使う表現
 ▶ She **changed** her mind. 彼女は気が変わった。
 ▶ **change** trains at A A で電車を乗り換える
 ▶ The traffic light **changed**. 信号が変わった。
 ▶ Keep the **change**. おつりは取っておいてください。

生徒にこのベーシック単語カードを確認させることで、1つの単語がいくつかの意味を持っている場合も多いこと、さらに用例でよく使う表現にも触れさせることで単語の広がり認識させることができるのではないのでしょうか。

まず重要な意味のまとめを見ることによって change の主要な意味がわかり、動詞だけではなく名詞もあること、動詞と名詞の意味が相互に関連していることがわかります。また G5と異なっており **よく使う表現** として用例がついています。短くて分かりやすい英語による見出し語の使い方です。上の語義に対応していて、初めの2つは他動詞(…を変える)、次の用例は自動詞(変わる)、最後は名詞(つり銭)です。この部分を読むだけ

で語の全体像がつかめることがねらいです。

語全体のイメージを把握すると個々の語義も理解しやすくなります。また実際の英文で意味がわからなくても、意味を推測するのも役立つかと思います。これは語彙習得の重要なポイントです。是非活用していただきたいと思います。

■ベーシックな語法解説

BG2では語法を**使い方**として解説していますが、G5にはない基本的なことも取り上げています。次は some **形**「①いくらかの」の例です。

使い方

(1)この意味では数えられる名詞 ([C]) の複数形または数えられない名詞 ([U]) の前につける：

- some books [× book] 何冊かの本。
- some bread いくらかのパン。

(2)some は肯定文で使い、疑問文・否定文・if [whether] 節では **any** を使うのがふつう：…

G5では[肯定文で；～+[C]名詞複数形；～+[U]名詞]と短く注記されているだけですが、BG2の利用者には詳しい説明が必要だとの思いで、用例を付けてコラムとしたものです。

■おわりに

ある大学生に He is particular about his clothes. (彼は衣服にうるさい) という文の particular の意味を問うたところ、「ラテン語」と答えました。よく聞いてみると電子辞書で『ジーニアス英和大辞典』の particular の項を開け、最初の行にある語源欄の「ラテン語 particularis (小部分の)」の部分を語義であると読み誤っていました。辞書は使い慣れることが肝心です。初級者はまずは BG2をよく使いこんで、求める情報を素早く引き出すことができるよう検索技術を養い、学力がついた時に、上級の辞書に切り替えることが望ましいでしょう。

(はたけやま としかず・大阪国際大学名誉教授)

見出し語とランクについて



関山健治

■ はじめに

『ベーシックジーニアス英和辞典』(BG)などの初級学習者向け英和辞典に対して、数字だけを見て、「収録語数が少ないから大学受験には対応できない」という先入観を持つ者も多い。今回の改訂で、筆者は、収録語や重要度ランクの見直しを中心に担当したが、初学者向け辞典という立場をふまつつも、英語が苦手な高校生を中心に、中学上級生から英語学習を「再起動」させようと思っている社会人までの幅広い層の英語学習者が、ふだんの英語学習において必要十分な規模の語彙を収録した辞書でありたいと考えた。

■ 収録語彙の選定

筆者が運用している語彙表データベースをもとに、初版の収録語を一から見直し、必要に応じて大小様々なコーパスデータを参照しながら、次の3点を軸にして語彙の選定を行った。

A：日常生活語彙の増強

国内外の picture dictionary や児童英語教育向けの語彙表、小学生向け英語辞典の収録語などをもとにした語彙表データベースを独自に作成し、英語圏の子供は誰でも知っているのに、日本の英語学習者にはなじみの薄い語を追加収録した。これにより、ふだんの英語学習だけでなく、英語圏へのホームステイや英語の絵本を読む際など、より実践的な場面でも BG を活用していただきたい。

★新規収録語の例：stuffed animal, unicycle, arts and crafts, green pepper, back-to-school など

B：高校の定期試験や大学入試に必要な語の増強

高校生の日常学習や入試への対応は、学習英和辞典の基本である。「BG は易しめの辞書だから、やっぱり載っていないのか」と思われないう、現行の教科書や入試問題コーパスを用いて、検定教科書やセンター試験を中心とした最新の大学入試問題、受験用単語集を精査し、収録語の見直しを行った。とくに、「ベーシック単語ボード」(本誌 p. 8 参照)でとりあげる表現は、高校の教科書で多く扱われているものを選んでおり、日常的な英語学習ですぐに役立つ辞書であることが実感できるだろう。また、従来は専門的な語とされていたが、最近の大学入試で出現頻度の高い時事的な語や、理系学部の入試で見られる基礎的な科学英語を新たに立項した。大学入試制度改革を見通し、外部試験にも対応していることは言うまでもない。これらの見直しにより、センター試験や英検準2級、2級の語彙問題や長文に出現する語(一部の固有名詞を除く)は、99%以上が BG に収録されるようになり、大学受験や資格試験対策としても安心して BG を使っていただけると言えよう。

★新規収録語の例：cognitive, empirical, placebo, embryonic, euthanasia, cardiovascular など

C：大学生や社会人の英語学習向け語彙の拡充

今回の改訂では、従来の初級英和辞典では手薄

になっていた大学の必修英語レベルの語や抽象語にも目を向け、英検準1級以上やTOEIC、TOEFLといった上級レベルの資格試験にも対応できることをめざした。闇雲に難語を載せるのではなく、G5のような上級英和辞典への橋渡しとして、資格試験の上位級で頻繁に出題されるフォーマルな語や、CLIL (Content and Language Integrated Learning) で必要となる基本的な学術語彙も積極的に収録した。

★新規収録語の例：agenda, cohort, paradigm, parameter, penchant, debacle, esoteric など

■ 重要度ランク表示の細分化と見直し

BG2では、ランク表示を初版の3段階（星2つ・1つ、無印）から5段階（星4つ～1つ、無印）に変更し、語彙表データベースや各種コーパスをもとにして、とくに初版で無印であった語を中心に、ランクを細分化した。これにより、学年やレベルに応じて、「自分にとってすぐに覚える必要がある語かどうか」を今まで以上にはっきり示すことができるようになった。それぞれのランクの詳細は以下の通りである。

(1)****：小・中学校レベルの語（約1200語）

英検5級～3級レベルの語で、中学校の検定教科書に出てくるような語である。高校入試に必要な語と考えてよいが、日常生活語彙など、中学校の英語教育であまり扱われなくても、英語圏では誰もが知っている語も多く含まれているので、児童英語教育に携わる先生方にも有用な語と言える。

(2)***：高校教科書レベル（約1600語）

英検3級～準2級レベルの語で、英語圏での日常生活語彙の一部も含まれる。卒業後の進路を問わず、すべての高校生が卒業までに身につけておきたいレベルの語である。

(3)**：標準的な大学入試レベル（約1400語）

英検準2級～2級レベルの語で、センター試験

をはじめとした一般的な大学入試に余裕を持って対応できる語である。一般入試で大学進学をめざす高校生は、専攻を問わず、卒業までにこのレベルの語までは習得しておきたい。

(4)*：難関入試、大学教養レベル（約2100語）

英検2級～準1級レベルの語で、難関大学の入試に対応できる語である。

なお、辞書のランク表示は、入試での出題頻度のみをもとにしたものでも、「生の英語」での頻度順位を忠実に示したものでもないということを強調しておきたい。従来の辞書で軽視されがちであった日常生活語彙に目を配るという観点から、入試にはあまり出なくても、英語の絵本によく出るような身近な語（giraffe, pencil, eraser など）には上位のランクをつけている。一方で、日本人英語学習者が積極的に使うべきではない俗語、卑語や、特定の分野に偏って出現する語などは、頻度に関係なく低いランクとなっている。データベースやコーパスに依存することなく、日本人の英語学習者が使う辞書という観点から、筆者を含め、複数の校閲者、編集者がすべての語のランクをチェックしていることは言うまでもない。

おわりに

BGは、初版の頃から「ベーシック」であると同時に、「フレンドリー」な辞書であることをモットーとしてきた。本稿でふれる余裕はなかったが、今回の改訂では単に収録語数を増やすのではなく、日本人英語学習者が目にすることが少ないと思われる古風な語や使用域の限られる語を中心に、大幅な見直しを行った。これにより、英語の基本を学ぶ上で本当に必要な情報に今まで以上にスペースを割くことが可能となり、より user-friendly な辞書となったと言える。

（せきやま けんじ・中部大学准教授）

初級学習者へ寄り添える 英和辞典を目指して

中畝 繁



イラスト：中畝弘子

■はじめに

私が現場で日ごろ接している生徒は紙の辞書が苦手です。「辞書って何か難しそうで、取っつきづらい」という具合に。そこでスマホを常時携行している生徒たちにも手に取ってもらえて、中をのぞいてもらえるよう、多くの工夫を盛り込みました。英語の持つ面白さ、不思議さを特に初級学習者にわかりやすく感じ取ってもらえるように、『ベーシックジーニアス英和辞典』は、よりアクセスしやすい第2版（BG2）に思い切って変身しました。以下に具体例で紹介させていただきます。

■最重要語（＊4つ）にイラスト付き特設ページ「ベーシック単語ボード」

見出し語の入り口での「ツカミ」の機能を担います。大まかに、その語の大事な特徴をまず掴んでもらえるはずです。最初にイラスト入りの「重要な意味」、続いて「他の重要な意味」、最後に頻度の高い「よく使う表現」という構成です。詳細は内容見本等をご参照願います。



■間違えやすい語には「ここに注目！」コラム

生徒は日本語訳1つを英単語にくっつけて記憶しています。その訳語が似通っていると英語の方が混乱してきます。たとえば「ほとんど」で記憶

される almost, most などです。以下は almost の項でのコラム「ここに注目！」の記述です。

注意！「ほとんど」はいつも almost ？

「ほとんど」を英語で表すときには注意しましょう。「ほとんどの子供」のように数や量について「ほとんど」という場合は、most children のように most を使うか、almost all (the) children (ほとんど全ての子供) のように all の前に almost をつけて使います。

×Almost children like curry and rice.

○Almost all children like curry and rice.

ほとんどの子供はカレーライスが好きだ。

○Most children like curry and rice.

(訳は上と同じ)

従来の非文情報（×だけ）を BG2用 に○×でさらにわかりやすくしました。このような記述に接することで、生徒はその語の弁別の特徴を自力でとらえられるようになります。ご指導していただき、その項目に、たとえば付箋を貼っていただく。そして「ほら、ここを読んでご覧」と困っている生徒を「気づき」へと導いていただけます。そして結果として「実戦」での応用も見込めます。以下はセンター試験の問題（2010年追試）です。正解は②です。

☐ our company employees have started to use public transportation because of the increasing price of gasoline.

- ① Almost ② Almost all of ③ Most
④ Most of the

■イラストを駆使した「使い分け」

「あっ，そうか，わかった！」は大事です。初めの解説と説得力あるイラストのコラボで生徒に直感的な「ワカル感」を提供しています。back 項，draw 項から以下にご紹介します。

使い分け ▶ in the back of A と behind A
in the back of the bus がバスの中の後ろ(図 ④)であるのに対し，バスの後ろ(図 ⑤)は behind the bus を使う：



④ He is sitting in the back of the bus. 彼はバスの後ろの席に座っている。
⑤ He is behind the bus. 彼はバスの後ろにいる。

back

■身近な語を「ピクチャー・ディクショナリー」でゲット！

『ジーニアス英和辞典 第5版』でもご好評をいただいた、「ピクチャー・ディクショナリー」をより分かりやすく，巻頭にカラーで29ページ分付けました（「ピクチャー・ディクショナリー」の詳細は，15ページの記事をご覧ください）。

■辞書内の情報リンクで，なるほどね

以下で左にあがっているのは put 項の句動詞 put 「A on [on A]」部分です。「使い方」に「→ wear **使い分け** ▶」とあります。右のイメージは参照先の関連語 wear 項の部分です。セットで理解した方がわかりやすいものは，このように情報をリンクしやすくしてあります。ここでもイラストが理解を促進してくれます（また，「動詞＋副詞辞」タイプの句動詞につきましては本体巻頭にあります「この辞書の使い方」の「9 成句・句動詞」の項をご参照願います）。

使い方 ▶ (1) put 「A on [on A]」は「身につける」という動作を表す。wear, have on は「身につけている」という状態を表す。
→ wear **使い分け**
(2) put 「A on [on A]」はほかに以下のような名詞と共に用いて「身につける」動作全般に用いる：hat (帽子をかぶる)，shoes (靴をはく)，ring (指輪をはめる)，makeup (化粧をする)。




put on

使い分け ▶ wear と put on
wear 身につけている(すでに身につけた状態にいる)
put on 身につける(身につけていない状態から)




wear put on

・Put on your jacket at once. すぐにジャケットを着なさい。◆「Wear your jacket at once. とはいえない」。

wear

■ちょっと一休み「Quiz!」

The more accessible, the more fun! というノリで以下のようなクイズも入れてみました。答えは各ページの欄外にあります。

Quiz!
[ことわざ] An () a day keeps the doctor away.
()には食べ物が入ります。次のうちのどれでしょうか。
1. egg
2. apple
3. orange

Quiz!
夏の風物詩である「花火」は英語でなんと言いますか？
1. fire flowers
2. flower fires
3. firearts
4. fireworks

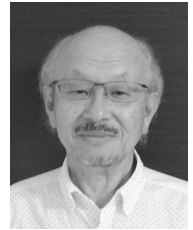


■まとめ

生徒に接していて一番感じることは「この子を自立した active learner にしてあげたいな」ということです。自分で課題を探し出し，直面する問題を，工夫して自力で解決する生徒のことでしょうか。生徒がひとりぼっちで英語を自学する時の相棒は，これまでも，そしてこれから先も英和辞典です。彼らが「軽い扉」を気楽に押して入っていける，学習者に寄り添う英和を，ここにお届けいたします。

(なかうね しげる・埼玉県立本庄高等学校教諭)

英語で発信する手助けとなる 「和英小辞典」の活用



佐藤 哉二

高校生になると、英文を読むだけではなく、英語で発信する機会も多くなり、授業だけでなく、パソコンでメールをやり取りすることなどに楽しみを見出す生徒もいるだろう。ずっとむかしの世代が、海外のペンパルとの手紙のやり取りを楽しんだように。

その英語を使う活動に必携の味方が和英辞典であることは間違いない。学校生活、クラブ活動、日本の事象や風物を英語では何といえよいか、そのヒントになる英単語や慣用表現、簡単な用例が載っているからである。『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』（BG2）にもごくごく小規模ながら「和英小辞典」を付録とした理由である。

項目数およそ2万4千だから十分とはいえないだろうが、とっきの検索にはなんとか役に立つように日本語見出しを厳選した。その実際の作業から、いくつか基本的なことがらや具体例を挙げながら述べてみたい。

まず、「こうも言える」という、同義語をいくつも並べることはできるだけ回避した。BG2利用者は、1つの日本語に対して、こうも言える、ああも言える、この単語もある、と並べられても、どれを選ばよいか迷ってしまうだろう。ただし、いたずらに削除するのではなく、生徒が迷うような語句に関しては、適切な選択制限を加えた。

むかつく [吐き気がする] feel sick, [腹が立つ] get disgusted

あるいは、見出し語が多義語の場合は必要に応じて対応する語を選んだ。

引く [引っ張る] pull; [数値を] take ...

off; subtract; [注意を] attract; [辞書を] consult; [線・くじを] draw

さらに、多義語では選択制限を [] で示した。

走る run; [列車・バスが] run

情けない [事が] shameful; [人が] ashamed

安い [品物が] cheap, inexpensive; [値段が] low

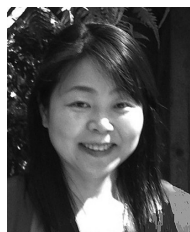
どろぼう [人] robber; [行為] robbery

外食産業の進出がはなはだしく、つい最近も、近所に回転ずしが開店したが、この「回転ずし」は必要だろう。が、「外食産業」までは要らないだろう。収録語を決定する際に、BG2を利用する生徒に必要なかどうかを判断する基準が難しい。「宅急便で送る」や「代金着払い」はどうしようかなどと採択するかどうかの悩みは尽きない。

巻末の「和英小辞典」という形態では十分な紙幅がとれないのも残念だった。例えば、「歯」には「歯を食いしばる」と「歯を磨く」の2つしか載せられなかった。「歯」に関連する語として英和本文で tooth を見ると、「虫歯がある」、「歯を抜く」、「歯が抜けた」もある。授業で和英辞典の使い方に触れる機会があれば、和英辞典から英和辞典へ戻り、英和辞典を和英辞典として活用する、そういう使い方も生徒に紹介していただき、英語で考え、考えたことを英語で発信する、和英・英和辞典の一步進んだ生かし方にも触れていただきたい。

(さとう さいじ・『ベーシックジーニアス英和辞典』編集委員、元高校教師)

カナで英語音は表現できないが…。



青柳真紀子

第2版でも発音記号に不慣れな学習者のためにカタカナ表記を付した。カナ表記には賛否両論あるが、Mike をミケと読んだり *pseudo* がまったく読めないよりも、/マイク/、/スードウ/と声に出せるほうがよいという考えである。

しかし、カナは日本語なので英語音を表現しきれないのも事実である。日本語にない音は近いカナで代用したり、日本語で区別のない音は同じカナになったりする (æ/a/ʌ/ə=ア, l/r=ラ行, s/θ=サ行など)。また、b/v, z/dz, ʒ/dʒ, l/r をブ/ヴ、ズ/ヅ、ジュ/ヂ、ル/ウルなどと書き分けてはいるが、英語音を知らなければ効果はない。問題は解決しないが、できる範囲の近似値で表記した。

注意点を抜粋すると、母音では、緊張母音 (i:, u:, ɔ:, a:) は弱音節を除いて長音表記だが (*father* /fɑːðər/ ファーザ), “o” 綴りの米音/a/ (英音/p/) は抑止母音相当で短いア (*god* /gɒd/ ガド)。また、二重母音は/tu:/, /tu/ の混同を避けるためにオウなど下付文字は使わずにオウ (*toe* トウ vs. *to* ト) など。子音では、/ŋ/ は下付のングで (*king* キング), 音節末の/m/ はムだが (*come* カム), 唇音が続くとン表記 (*trumpet* トランペット) など。強勢に関しては、第一強勢のみ太字で (*Jāpanése* ジャパニーズ), 機能語は弱形 (原則は太字なし) を先に記している (*for* フォ, フォー)。また、子音から母音へのリエゾンでは語中のみで、ハイフン語や分離複合語ではしていないが、/n/ を閉じない日本語の癖を防ぐため、/n/ から母音は常にリエゾンさせている (*run-in* ウランイン)。

初版との違いでは、わたりの/ə/のア表記をやめ (*serious* 初版スィアリアス→第2版スィリアスな

ど), フル母音での発音防止を意図した。

また、今回増えたのは音節末子音の下付表記で、語中にも採用した (*picnic* ピクニック)。子音後の母音挿入を防ぐ意図だが、リエゾ的な表記が減る代わりに形態素境界が見える利点もある (*black-eyed* 初版ブラカイド→新版ブラックアイド)。母音挿入の恐れのない/n/ (*pen* ペン), 重ね字の/ʃ/ (*dish* ディシュ) は下付の例外にした。さらに、音声的に音節末でも形態素境界を優先したり (*build-er* ビルダでなくビルダ), また発音上の観点から下付にしていない (*Cap-ri-corn* キャブリ..でなくpを止めずにrに繋げてキャブリコーン) など。

そもそも、音節末といっても音節区分は複数ある上、辞書も見出し語内の母音変種による区切変化をたいてい割愛する。つづりや形態素境界、原語彙、音連鎖などとの関係も見ると様々なケースがあり、あちらを立てればこちらが立たずになる。見出し語の境界に基づき、原則に妥当な例外を許しながら、また発音記号との整合性のため多くの妥協をしながらの作業となった。

いずれにしてもカナでは限界がある。*economy* はイカノミかエカノミかと問われても、弱音節ではどちらでもなく中間的というのが近いし、*replay* ウリープレイのウリーは*cab* キャブのキャより実際は短い。*ended* はエンデドと書きたいが、すると*kisses* はキセズでないといけなく (悪くはないが)。ましてや*cotton* をカッシー、*McDonald's* をメッダーノーツとハジケルわけにもいかない。やはり、カナはだいたい、である。少しでも補助になれば幸いに思う。

(あおやぎ まきこ・獨協大学英語学科教授)

入門期こそ語源で単語を覚えるチャンス

——「いっしょに覚えよう！」「なるほど単語情報」の活用を

林 信孝



■入門期用英和に語源欄？

英和辞典というものは、知らない単語の意味を調べるために引くものとつうは思われています。だから語源欄などというものが、入門期用英和に必要なのかと訝る向きも多いのでは？

しかし、入門期こそ、語源を利用しての語彙学習に意味があるのです。英語学習の早い時期に、接頭辞や接尾辞などの語形成や語彙構造の仕組みに触れることで豊かな学習につながります。それには、ちゃんと理由があるのです。

■記憶力の発達段階

人間の記憶力には機械的記憶と論理的記憶の2種類があつて、後者は老年期まで衰えませんが、前者のピークは平均で12歳ということです。語学の学習には、文法のように論理的に理解できる部分もありますが、語彙のように言語の恣意性が優勢な部分もあります。これが若いうちに習得しないと外国語がなかなか身につかない原因です。

英語学習の入門期（かつては中学1年、現在は小学校の高学年）こそが正にその時期にあたるので、膨大な数の単語を次々に覚えて行かなくてはならなくても乗り切れるのです。しかし、そういう時期だからといって、闇雲に覚えさせるのは記憶力への負担を増やすだけで、すぐに訪れる機械的記憶の衰えに対応できないことになります。

そもそも英米人が大人になっても新しい単語を覚えられるのは、語彙の構造に論理的記憶を活用する方策が隠されているからに他なりません。それが語源です。同じ語根に接頭辞や接尾辞を付けたり換えたりすることで、関連語をまとめて記憶

しているのです。これを入門期から開始することで、豊かな英語学習へと誘っていただけるのです。

■語源欄は現代語情報

英語教師の方々には、語源というと、英語史の話で、古英語・中英語や比較言語学の知識がないと触れられないと感じている人も多いのでは？ そんな事柄は英米人もよくわかっていません。単語が接頭辞＋語根＋接尾辞に分解できて、それぞれに共通の意味要素を持っているとしか感じていません。

■具体例から

『ベーシックジーニアス英和辞典第2版』のattractの項にある「いっしょに覚えよう」では、次のようになっています。

いっしょに覚えよう！

“tract”は「引く」の意味

attract 引き寄せる ←魅力で引く

tractor トラクター ←農機具を引っぱる車

distract 注意をそらす ←人の注意をあちこちに引く

attractの次の項attractionには「(遊園地などの) アトラクション」も出ています。これらの語が「引く」という共通項で括られ、一緒に覚えることができるのです。

急がば回れの語源情報、ぜひ入門期に活用する習慣を付けさせたいものです。

(はやし のぶたか・フェリス女学院中学校・高等学校教諭)

「ここに注目！」

——言語と言語学習への科学の目



藤原康弘

「ここに注目！」のコーナーでは、日本の中高生が間違いやすい誤りを示し、分かりやすく解説しています。

1960年代後半、第二言語習得研究 (Second Language Acquisition) が始まって以来、学習者の誤り (エラー) は主たる関心事でした。そのため、「よくある間違い」に関するコラムはさほど目新しくはないかもしれません。しかし、昔の教材や書籍の多くは英語教師の経験のみから示されてきたことに注意が必要です。

もちろん教師の経験は重要です。筆者も自身の中高大での教育経験に照らして、本コーナーの項目を選定しました。しかしながら、何事も経験のみでは正確に把握できません。確固としたエビデンスが必要です。

■データに基づく英語教育へ

テクノロジーの発展とともに、近年ではさまざまな「コーパス」が利用可能になりました。つまり実際に使用された大量の言語データをコンピューター上で分析することで、その教師の経験や直

感を補うことができるようになりました。

本コラム執筆において、日本の中高生が間違いやすい誤りを抽出する上で、2種類のコーパスを使っています。まず「日本の中高生が実際に間違えるか」を検証するために、日本人英語学習者コーパス、主として JEFLL コーパス (Japanese EFL Learner Corpus) を用いています*。JEFLL コーパスとは、日本の中高生による自由英作文、約67万語を集めたコーパスで、オンライン上で無償で公開されています。

つづいて「その用法が間違いか」を現代アメリカ英語のコーパス (Corpus of Contemporary American English: 約5億語) で検証した後に、世界のさまざまな英語のコーパス (Global Web-Based English: 約19億語) でも確認しています。下記は実際の事例です。

言語習得において誤りは避けられません。しかし先人から学び、さまざまな誤りに対して意識を高めることで、言語学習が促進されることでしょう。これからの英語教育の一助になれば幸いです。
(ふじわら やすひろ・名城大学)



ここに注目!

because

注意! 「なぜなら、〇〇」を英語で書くとき気をつけよう

「なぜなら」「…なので」「…だから」といえば、よく用いられる because. 下のような Because で始まる理由のみの文が高校生の英作文でよく見られます。しかし、“Why ...?” の答え方として “Because ...” とするはよいのですが、文章の中では2文をつなげて書きます。

× I like winter. Because, I can ski.

○ I like winter, because I can ski. 私は冬が好きだ。なぜならスキーができるからだ。

* JEFLL コーパスは、投野由紀夫東京外国語大学大学院教授の研究室が作成した JEFLL コーパスの解析データを編集部で分析した

改訂のポイントとコラム・付録について

編集部



『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』は、全面改訂でまったく新しい辞書に生まれ変わりました。紙面レイアウトを中心とした改訂ポイントと、充実したコラム・付録の数々をご紹介します。

■見やすい引きやすい紙面レイアウト

初版と比べてまずお気づきになるのは、紙面レイアウトが一新したことだと思われます。文字の大きさを全体に大きくし、色文字を効果的に使っています。見出し語のランクを変更したのは関山健治先生の記事 (pp.6-7) の通りですが、重要語である小・中学校レベル (*4つ) と高校教科書レベル (*3つ) の見出し語は、2行どりの大きな色文字としました。また、その重要語の主要な語義も大きな色文字にして、それらの文字をざっと追っただけでその語の意味の全体のイメージが把握できるように工夫しました。

advance

/ədˈvæns アドヴァンス | -vɑːns アドヴァーンズ/

——動 (三単現) **advances** /-ɪz/ ; (過去・過去分) **advanced** /-t/ ; (現在分) **advancing**

——自 ① 進む, 前進する。

・The army **advanced** to the river. 軍隊は川のところまで進んだ。

② 進歩する ; 昇進する ; 〈物事が〉進む。

・The technology is **advancing** very quickly. その技術は急速に進歩している。

③ 〈物価・率などが〉上がる。

——他 ① …を**進歩**させる, **発展**させる, **促進**する。

初版同様、発音表記は発音記号 (IPA) とカタカナ発音を併記しましたが、第1アクセントを色文字として、よりわかりやすい表記としました。

■重要語を理解するための工夫「ベーシック単語ボード」「ベーシック単語カード」

最重要語 (18項目) については、その語義のイメージを一目でつかめるようイラストつきの特設ページ「ベーシック単語ボード」を用意しました。その語を使ったよく使う表現もまとめてあり、学習の導入としても最適です。

重要語 (206項目) については、見出し語のすぐ下に単語カード形式の「ベーシック単語カード」として、主要な語義とよく使う表現をまとめました。その語のポイントが一目で理解できます (「ベーシック単語カード」については、畠山利一先生の記事 (pp.4-5) もご参照ください)。

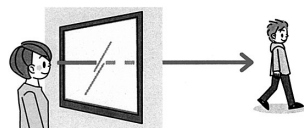
■豊富なイラストで語のイメージがつかめる

初版でご好評をいただいていた語義のイメージ図ですが、今回の改訂では生徒により親しみやすく、そして英語の使用場面を視覚的に理解してもらうために、語義イメージを表すイラストを多用しました。

・A car went **through** the tunnel. 車がトンネルを通り抜けた。



・She saw him **through** the window. 彼女は窓越しに彼を見かけた。



■生徒の知識を広げる豊富なコラム

今回の改訂では、生徒の知識を広げる多種多様なコラムを追加しました。本文同様、イラストも効果的に配置し、生徒の英語への興味・関心を高める工夫をしています。

コラムは、語や表現の使い方に関するもの(「使い分け」(95項目)、「ここに注目!」(26項目))、語源など単語の背景に関するもの(「なるほど単語情報」(29項目))、類義語や接頭辞・接尾辞などの活用で語彙増強につながるもの(「似た語」(70項目)、「いっしょに覚えよう!」(18項目))などがあります。

楽しく学べる工夫として、クイズ形式のコラム「Quiz!」を多数収録しています(91項目)。意外な単語の使い方のほか、なぜなぜやことわざなども盛り込んで、英語への興味を広げます。また、関連語をまとめたものや文化情報に関するコラムも充実しています。それぞれのコラムの詳しい内容については、本特集の各記事をご参照ください。

■身のまわりのことを英語で表現!「ピクチャー・ディクショナリー」

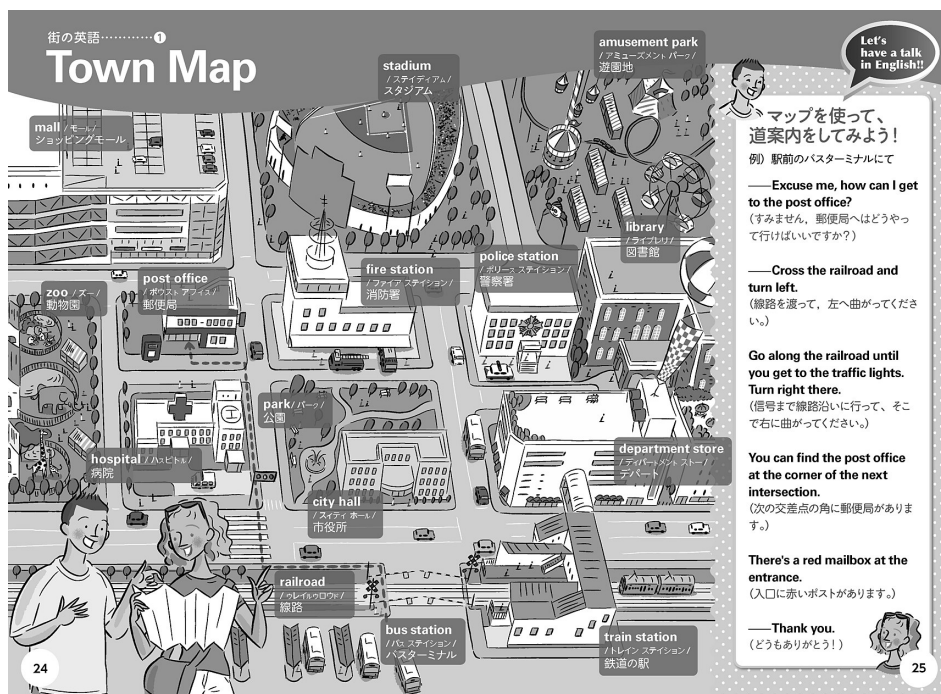
巻頭カラーページとして「ピクチャー・ディクショナリー」(29ページ)を用意しました。学校や日常生活の身近な場面をイラストで表し、普段よく使うものや動作などを英語でどう表現するか、楽しく学ぶことができます。

教室英語や道案内、買い物など、その場面で使える会話例も盛り込みました。

ここに収録した語句や会話例については、スマートフォンやタブレットで音声で聴ける仕組みを提供いたします(近日中に公開予定)。

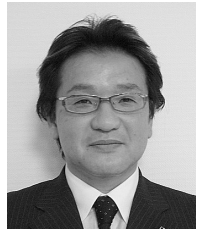
* * *

内容でもビジュアルでも、親しみやすさ・使いやすさを追求し、随所に工夫をこらした『ベーシックジニアス英和辞典 第2版』は、高校生が初めて使う英和辞典として最適です。ぜひこの辞書を手に取っていただき、生徒さんたちといっしょに、英語学習の楽しさを再確認していただければ幸いです。



ピクチャー・ディクショナリー

『ジーニアス総合英語』 編集方針の3つの柱



中邑光男

『ジーニアス総合英語』を編纂するにあたって
私たちが立てた編集方針は次の3点である。

- (1) 『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5)と連携させる。
- (2) 分かりやすい説明を示す。
- (3) 必要に応じて、一歩進んだ説明を示す。

(1)の方針についてだが、生徒が総合英語で英文法を学んだ後で、問題集を解いたり、入試問題に挑戦したりするだけでは、もったいない。彼らが将来、英字新聞・雑誌・洋書などに親しみ、仕事でも英語を使えるように、学習上の道筋をつけた。『ジーニアス総合英語』とG5を連携させることによって、生徒は『ジーニアス総合英語』を学んだ後、G5を活用して、スムーズに英語学習を続けることができるだろう。私たちが「総合英語の参考書と英和辞典を連携させる」という、これまでに例のない試みにチャレンジしたのは、このように考えたためである。

この連携作業の結果、例文に話を限っても、例えば「第5章 助動詞」の58のモデル文のうち、G5からの用例は31文である。さらにG5の用例を一部改変したものを含めると36文に達する。『ジーニアス総合英語』にはサブモデル文も多いが、それにもG5から多くの文を取り入れた。

(2)の方針については、文法項目の説明を、学習者にとって分かりやすいものにするだけでなく、例文を覚えれば文法のポイントを効果的におさらいできるように、例文の英語と和訳を徹底的に検

討した。

(3)の方針については、これまで総合英語で取り上げられることが少なかった項目でも、生徒が文法をより深く理解するために必要であるならば、一歩進んだ説明を示すように心がけた。

本稿では、この方針の(2)と(3)について、具体例、特に例文を挙げながら詳しく説明していく。

■分かりやすい説明を示す

1. ポイントが分かりやすい例文

第10章「比較」では〈A is no more B than C is D〉といういわゆる「クジラの公式」を取り上げた。『ジーニアス総合英語』ではこの構文の本質を「C is D は明らかに正しくないことの極端な例であり、その例に劣らないくらいA is B が正しくないことをA is no more B で表している」と説明した。そこで例文では、C is D のところに、明らかに正しくない内容を持つてくる必要があるのだが、これが意外と難しい。

例えばよく見かける He is no more a genius than I am. (私が天才でないのと同様に、彼も天才ではない。)は、「私が天才ではない」ことが、「明らかに正しくないことの極端な例」となっているが、この文だけでは「私が天才ではない」とは分からない。

例文を検討した結果、私たちが採用したのは次の例文である。my little child の little がポイントで、「私の小さな子どもは弁護士だ」があり得ない極端な例としてふさわしいだろう。

He is **no more** a lawyer **than** my little child (is).
彼が弁護士でないのは私の小さい子どもが弁護士でないのと同じだ。

このように、英文法のポイントが一目で分かるような例文を挙げた。

2. 多角的観点から練られた例文

〈(all) the+比較級+for ... [because ...]〉は「第10章 比較」の重要構文である。この構文について、私は生徒の時に、I like him all the better for his faults. (私は彼を欠点のためにますます好きだ。)を暗記した。しかし、正直なところ、この文の意味を当時は理解できなかった。この文は、「私は彼のことを好きだ。彼には欠点があるが、それがそのまま彼の特徴・個性である。だから欠点があるからこそ、もっと彼が好きだ」という意味だが、高校生の私には深すぎた。

この例文は当時の多くの参考書に掲載されていたために、私たちの頭には、〈(all) the+比較級+for〉には faults のような「マイナスのことば」が続くと刷り込まれた。しかし、コーパスのCOCAを見ると、for の後に「マイナスのことば」が使われている例はなかなか見あたらない。学習用英英辞典の用例も同様で、*Oxford Advanced Learner's Dictionary* は You'll feel all the better for a good night's sleep. (一晩ぐっすり寝ると、ますます気分がよくなるよ) のように「プラスのことば」を続けている。

このような考察に、ネイティブ編集委員の意見も加え、『ジーニアス総合英語』では、for の後に「プラスのことば」を続けた。

I like him **all the better for** his sincerity.
彼は誠実なのでそれだけ、いっそう彼のことが好きです。

このように、『ジーニアス総合英語』では、辞書、コーパス、文法書などを使い、ネイティブ編

集委員の意見も取り入れながら、例文を多角的に検討した。

3. 例文の和訳にひと工夫

「第5章 助動詞」では、依頼表現として Will you ...?, Would you ...?, Can you ...?, Could you ...? などを取り上げたが、生徒にとってこれらの表現の使い分けは分かりにくいだろう。他人へ依頼する時に使う表現であるから、場面に合わせて使い分けられるように、それぞれの表現の「丁寧さ」が気になるはずだ。

この章で示したモデル文は、Will you pass me the pepper? である。Will you ...? は略式の表現 (*Collins English Usage*, HaperCollins, 2012) で、「どちらかと言うと命令的な感じがあり、ていねいさの度合いが少なくなる」(『実例英文法』, OUP, 1988) と説明される。G5にも『「取ってくれませんか」』というていねいな依頼の意味には通例ならない』という注がある。

これらの情報と例文の内容を考え合わせると、Will you pass me the salt? は家族などの親しい間柄で使われる表現だと言えよう。これを「コショウを取ってください」と和訳しては、そのニュアンスが分からない。そこで、私たちは次のような例文と和訳を示した。

Will you pass me the pepper?
コショウを取ってくれる？

このように、英語のニュアンスがよりよく分かるように、和訳にひと工夫を加えた。

4. 「ほぼ同じ意味」でも使い分けに注意

「第7章 不定詞」では、「形容詞の意味を限定する」不定詞の例として、① It is difficult to answer that question. と② That question is difficult to answer. という英文を挙げた。通例、この2文はほぼ同じ意味を表すと説明されるが、『ジーニアス総合英語』では、表現は形が違っても意味が違うという考え方に立ち、可能な限り、意

味・ニュアンスの違いや使い分け情報を示すようにした。

上の①と②との大きな違いは主語である。主語は、多くの場合、話題を表すので、この2文の違いを「注意」欄で、次のように説明した。

次の2つの英文はほぼ同じ意味だが、厳密に言うと、①ではit、つまりto answer that question（その質問に答えること）が話題だが、②はthat question（その質問）が問題となっているという違いがある。

① It is difficult to answer that question.

その質問に答えるのは難しい。

② That question is difficult to answer.

その質問は答えるのが難しい。

このように、ほぼ同じ意味を持つ文のニュアンスの違いをできるだけ分かりやすく示した。

■必要に応じて、一歩進んだ説明を示す

1. 生徒が持ちそうな疑問点をカバー

「第13章 名詞」では、物質名詞の量の数え方を取り上げた。①「形を表す名詞を使う」例としてa slice of cheeseなどを、②「容器を使う名詞を使う」例としてa bottle of milkなどを、そして③「単位を使う名詞を使う」例としてa pound of butterなどを挙げた。

私は、高校生の時に、「グラスでなく、カップで水を飲むことがあるが、あのような場合もa glass of waterと言うべきなのか」と疑問に感じた。しかし、その疑問に答えてくれる参考書は、当時なかったように思う。現在でも、私のように疑問を持つ生徒もいるだろう。そこで、次の注を付けた。

容器を表す名詞には実際に使ったものの名前を使う。例えば、「グラス」を使いジュース1杯を飲んだ場合はI had a **glass** of juice. と言うが、「カップ」で飲んだならI had a **cup** of juice. と言う。

このように、生徒が持つと思われる疑問を取り上げ、それに対する回答を示した。

2. 「使ってみよう」と思わせる有益な語法情報

「第24章 名詞構文・無生物主語」では、She took a look at Jim.（彼女はジムをちらりと見た。）をモデル文とした。このような名詞構文は、しばしば「英語らしい表現」とされてきたが、なぜそうなのかという説明はされてこなかった。

そこで、『ジーニアス総合英語』では、「もっとくわしく」という欄で、話し手の立場から一歩進んだコメントをつけた。

〈基本動詞+a/an+動詞の名詞形〉で使われる不定冠詞のa/anは、「ちょっとした」や「1回だけの」を意味する。そのためLet's **take a rest**. は「ちょっと休もう」の意味で、例えば勉強の途中で、「少しだけ休んだ後、勉強を再開しよう」という場合などに使う。これをLet's rest. という、比較的長い休みを表しているように響く。

同様に、Why don't you **take a look** at this book?と言うと「この本をちょっと見て」という意味を表し、相手にあまり負担感を感じさせないような誘いの表現になる。

このようなことから、〈基本動詞+a/an+動詞の名詞形〉は、リズムがよいこともあって、話しことばでよく使われる。

このような情報があれば、生徒は自信を持って〈基本動詞+a/an+動詞の名詞形〉を使いこなすことができるだろう。

3. 「ふつう」の言い方を提示

「第4章 完了形」では定番とも言える「祖母が亡くなってから3年になる。」を取り上げ、①My grandmother has been dead for three years. ②Three years have passed since my grandmother died. ③It is three years since my grandmother died.を挙げた。

一般に、この3つの表現はほぼ同じ意味を表すと説明されるが、その説明だけでは、ふつうはどの表現を用いればいいのか生徒にはわからないだ

ろう。実際のところ、日本語の感覚からすると、①は多くの学習者にとっては違和感のある文だが、my grandmother を主語とし話題の中心としていることから、この文の内容を考えると、最もふつうである。(ちなみに②は3年が話題の中心になっており、誰かが例えば、「祖母が亡くなってから5年経つ」と発言したために、「(5年ではなく)3年だ」と述べている文である。また③は②とほぼ同じ意味を表すが、②ほど唐突な感じは与えない。)そこで、『ジーニアス総合英語』では、次の情報を加えた。

現在完了形の継続用法を使った第1文目が最もふつうの言い方。

このように、できるだけ、「どの表現がふつうか」を示すようにした。

4. 実際の英語を踏まえた解説

「第23章 強調・倒置・挿入・省略・同格」の「同格」では、「名詞(句)の並列による同格表現」(例: Ms. Brown, our new ALT), 「ofを使った同格表現」(例: the state of New York), 「同格のthat節」(例: the fact that ...) を取り上げるのがふつうだ。しかし次のような同格表現は実際にはよく使われるのにもかかわらず、総合英語で取り上げられることは少なかった(下線部は筆者)。

Florentyna won and chose to speak first, a mistake she never made again in her life. (フロレンティナは[コイントスの結果]勝ち、最初にスピーチすることを選んだ。しかしそれは間違いで、彼女はその間違いを人生で二度と繰り返すことはなかった。) —Jeffrey Archer, *The Prodigal Daughter*.

そこで「もっとくわしく」として、次の一步進んだ説明を加えた。

前文で使われたことばやその内容を名詞で表現し、それに関係代名詞節を加える用法がある。特に新聞・雑誌などでよく使われる。

Water boils at 100°C — a fact **that** you can easily prove yourself.

水は100度で沸騰するが、このことは自分で簡単に証明できる事実だ。

この例では、Water boils at 100°Cという文の内容を a fact とまとめ、それに関係代名詞節の that ... を加えたものである。

このように、実際の英語に目を向け、これまであまり取り上げられなかった表現にも注目した。

* * *

はしがきに書いた Every ounce of effort you make in learning English will be amply repaid to you later. (あなたが英語を学習する際に積み重ねたどんな小さな努力も、後に必ず豊富な知識となって身につく。) は私の大学時代の恩師のことばである。

この maxim の will は単純未来であり、話し手がある事柄が高い確率で、または必ず将来に起こると考えていることを表している。しかし、英語学習者にとって英語力は順調には伸びないことが多い。そのような時に「本当に私の努力は will be amply repaid to me later なのだろうか。本当は may (かもしれない) ではないのか」と悩む人も出てくるだろう。私もそうだった。

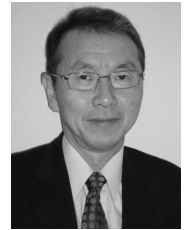
しかし、それでも、英語学習を続けているうちに、英語力が伸びたとハッキリと意識する時が訪れる。その時だ。「あの will は、すぐにくじけそうになる私のような学習者を励ましていたんだ」と気づくのである。恩師のこのことばが素晴らしいのは、will の持つ「励ます力」のためである。

生徒には、『ジーニアス総合英語』で英文法を学んだ後に、G5でさらに学びを深めてほしい。英語には、そのように学習を続ける価値があるからだ。そうすれば、この maxim に励まされる生徒がまた現れるかもしれない。その願いを込めて、私たちは『ジーニアス総合英語』をお届けする。

(なかむら みつお・関西大学教授)

『ジーニアス総合英語』を授業に 生かし、表現力を伸ばす指導法

山岡憲史



■文法知識とコミュニケーション

文法の知識はコミュニケーション能力の育成に欠かせないものであることに異議を唱える人はいないでしょう。しかし、私たち英語教師は形式(form)と意味(meaning)の定着に力を入れすぎ、生徒たちに文法規則の暗記と演習ばかりを強いてきたように思われます。その結果、生徒たちは文法問題には対処できても、実際に文法を使って表現するという力が、悲しいほどついていないのが現状です。

しかし、現行の学習指導要領が謳うように、「文法はコミュニケーションを支えるもの」であり、文法指導は常にコミュニケーションを意識したものでなければなりません。形式の習得はもちろん必須ですが、今後の文法指導は、学習した形式をどのような場面(situation)でいかに使うのか(使い方:usage)という、実際のコミュニケーションを見据えたものにすることが肝要と思われる。

■『ジーニアス総合英語』のめざすもの

今回、9名の編集委員が渾身の力を込めて上梓した『ジーニアス総合英語』は、文法の形式と意味にわかりやすくかつ詳しい解説を施しただけでなく、文法形式が表す表現がどのような機能(function)を持ち、どのような場合に使われるのかについても丁寧な説明を行っています。

例) 未来進行形を使った表現 (p. 82)

(2) We **will be landing** at Haneda Airport shortly. (訳省略)

未来進行形にはもう1つの用法があり、(2)のよ

うに、「～することになっている」という意味を表す。主語の意志とは関係なく、成り行きや状況からして当然そうすることになるという予定を表す。

[もっとくわしく] 未来進行形は、意志の意味合いを含まない。そのため、相手の意志を尋ねることが直接的すぎる場合は、未来進行形を使うことで、間接的で丁寧な表現にすることができる。

When **will you be visiting** us again?

次の訪問はいつ頃になりますか。

上例の下線部が機能であり、どのような場合に使われるのかの説明ですが、『ジーニアス総合英語』では、文法が使われる場面や機能とその使い方について、このような細心の配慮をしており、「英語表現」の教科書の例文と最小限の解説では補いきれない解説に命を吹き込むことができます。似た表現や語の意味の違いにも詳しく言及していますので、例えば「可能性」を表すcanとmayの使い分けができるように、『ジーニアス総合英語』p. 121を参照させます。

[もっとくわしく] canが「一般的な可能性」(出来事が不定期に何回か起こる可能性)を表すのに対して、mayは「具体的な可能性」(出来事が特定の1回だけ起こる可能性)を表す。

① Mountain climbing **can** be dangerous in summer, too. (訳省略)

② Mountain climbing **may** be dangerous today. (訳省略)

①は、夏の山登りの危険性について一般的に述べている場合で、②は今日山登りをしようと考えている人に山登りの危険性を説明している場合である。

■『ジーニアス英和辞典 第5版』との連動性

このように、文法形式の持つ機能や実際の使い方に鋭く切り込むことを可能にしたのは、『ジーニアス英和辞典 第5版』(以下G5)とのコラボレーションの賜物です。電子辞書の搭載率で圧倒的なシェアを誇り、語法の詳しさに定評のあるG5ですが、一般的な高校生にはややハイレベルで、意味を調べることで以上の活用があまりできていないケースもあるかもしれません。

『ジーニアス総合英語』は、G5に盛り込まれている文法形式や語句の使い方のエッセンスを高校生が実際にコミュニケーションに役立てることができるように抽出し、例文も極力同じものを取り上げています。例えばp. 612には、Why don't you **take a look** at this book? という例文について「『この本をちょっと見て』という意味を表し、相手にあまり負担感を感じさせないような誘いの表現になる。」という記述がG5のlook④①内例文 Could you take a *look* at this draft? の注記《◆ Could you read this draft? では、「間違っているかもしれないので注意して読んでできれば批評してほしい」の意》に通じる解説になっています。

このように、『ジーニアス総合英語』をG5と一緒に参照させ dual sources から学ばせることにより、知識は複眼的でより確かなものとなり、メタ認知力を伸ばすことにもつながるでしょう。

指導例を1つ挙げてみます。

he was so funny that she **couldn't help laughing**. という文の前に来るのにふさわしい文を選ばせます。

- (1) Bill tried to be serious, but
- (2) Bill tried to amuse everyone, and

そして、『ジーニアス総合英語』p. 579およびG5 help の成句を参照させ、cannot help *doing* が「～することが避けられず、自分の行為をコントロールしようと思ってもできない場合に使われる」ことを学ばせます。

■文法を持つ特性と文体への配慮

それぞれの文法形式には、その特性とそれが使われる必然性があります。『ジーニアス総合英語』では、関係代名詞の制限用法を「絞り込む用法」、非制限用法を「つけ足す用法」と説明しています。受動態で行為者を表す by ~ は、「それが必要な場合にのみ置かれる」とし、すでに話題に上っている(旧情報である)代名詞が by 以下に来ることはあまりないことを記しています。分詞構文の例文には、従来 Walking along the street, I met John. のようなものがほとんどでしたが、「あいまいさを残したまま判断を読者に任せる小説などで多く見られます」と解説して、The queen went down the stairs, **waving her hand**. のような、文語体にふさわしい例文を挙げています。このような情報は、表現力を伸ばす指導で極めて重要であるだけでなく、英文を読解させる場合にも参照させるべきだと言えます。

総合英語の参考書を使わせる場合、「35ページから58ページまでを勉強してください。次の時間にテストします。」というような指導がどれほど非効率で生徒の意欲を削ぐかは、多くの先生が身をもって体験しているはずです。最初は網羅主義を捨てて、必要な時にピンポイントで文法に関する有益な情報を refer させる書物として、授業内や家庭学習で使わせてみることをお勧めします。生徒には理解した内容をマーカーでハイライトさせます。(本書に必要以上に色が使われていないのは、生徒に「色をつけさせる」という深謀遠慮からなのです。)次第に自分の色が多くなってくれば、難しいと思っていた文法が身近なものとなり、参考書が親しいものに思えてくるでしょう。そうなれば、生徒が自ら読み進んでいくものです。そのような、生徒の気づきや発見を豊富に散りばめた「コミュニケーションを支える」文法参考書として、『ジーニアス総合英語』は貴重な学習書となることでしょう。

(やまおか けんじ・立命館大学教授)

生徒の理解を深める 一歩進んだ文法・語法情報



柏野健次

『ジーニアス総合英語』の1つの目標は、従来の学習参考書ではあまり取り上げられていないが一歩進んだ重要な文法・語法情報を、英語学の知見に基づいて幅広く取り入れ、それを平易な言葉で解説することであった。実際に本書をご覧いただければ、それが随所にちりばめられていることが分かってもらえると思うが、以下では紙幅の関係でその具体例を7項目だけ紹介する。

◆現在時制の hear と forget

本書の「第3章 時制」p. 86と「第4章 完了形」p. 97に次のような hear や forget が現在時制で用いられた例が載っている。

- (1) I hear John has a job at the hotel. (ジョンはホテルで働いているんだってね)
- (2) “What was the title of the movie you saw yesterday?” “I forget.” (「昨日君の見た映画のタイトルは何だった?」「忘れちゃった。」)

(2)の「忘れちゃった」なら現在完了や過去時制を使って表しそうだが、現在時制が使われていることに疑問を持つ生徒も多いことだろう。

これらの現在時制は I've heard...や I've forgotten. よりもさらに現在の状態を強調する働きをし、それぞれ I understand (～という情報を持っている) や I don't remember (忘れて思い出せない) とほぼ同じ意味を表している。この hear と forget は、特に話しことばでよく用いられる。

◆ may, might, could と can

「第5章 助動詞」p. 120に may, might, could

が現在や未来に関して「～かもしれない」「(たぶん)～だろう」の意味を表す例が見られる。

- (3) Bill may [might, could] be sick.
- (4) She may [might, could] come here soon.

ここでは3つの助動詞は「具体的な可能性」(出来事が特定の1回だけ起こる可能性)を表しているが、こういう場合には can は使えない。can が使えるのは、Anybody can make mistakes. (誰でも間違いを犯すことはある)のように「一般的な可能性」(出来事が不定期に何回か起こる可能性)を表す場合である。ただ、これは肯定文に限って言えることで、疑問文や否定文では、Can it be true? (それは本当なのか) や It can't be true. (それは本当のはずがない)のように、can は「具体的な可能性」を表すことができる。

◆ must not と don't have to の表す意味

「第5章 助動詞」p. 125に must not と don't have to の意味の違いについて次のような説明がある。

例えば、You must not do that. では not は動詞 (do) にかかり、「あなたがそれをしないことが要求されている」(=It is necessary for you not to do that.) ことから「それをしてはいけない」という意味になる。一方、You don't have to do that. では not は have to にかかり、「あなたはそれをすることは要求されていない」(=It is not necessary for you to do that.) ことから「それをする必要がない」という意味になる。

ちなみに、他の助動詞、例えば may は「可能性・推量」の意では not は動詞を否定し、「許可」

の意では not は助動詞を否定する。

(5) He may not be serious (彼は真剣でないかもしれない) [=It is possible that he is not serious.]

(6) You may not touch my belongings. (私の持ち物に触ってはいけない) [=You are not allowed to touch my belongings.]

must not と don't have to の意味が違うことはどの文法参考書にも載っているが、なぜこのような意味の違いが生じるのかについて書かれているものはあまりないようである。

◆分詞構文が使えない場合

「第9章 分詞」p. 250に「彼は目を閉じて座っていた」を分詞構文を使って、×He was sitting, closing his eyes. とはなぜ言えないかの説明がある。

これが不可なのは、close his eyes は瞬時に目を閉じる動作を表すので、現在分詞の closing にすると反復動作を表し、He was sitting, closing his eyes. は「彼は何度も目を閉じながら座っていた」という意味になってしまうからである。ここでは、〈with+目的語+分詞〉を用いて He was sitting with his eyes closed. とする必要がある。

同じように、「彼は腕を組んだままそこに1人で立っていた」は fold は瞬間的な動作を表すので、×He was standing there, folding his arms. ではなく、He was standing there with his arms folded. が正しい。

◆〈as ... as〉構文で使われる形容詞の意味

「第10章 比較」p. 261に〈as ... as〉構文で用いられる old/tall などの形容詞の意味について言及がある。ふつう、これらの形容詞は「(年齢が)…歳の」「(身長が)…の」という中立的な意味を表すので、(7)ではトムとジェリーは5歳でも80歳でもいいし、150センチでも180センチでもよい。

(7) Tom is as old [tall] as Jerry.

ただし、文脈上、「年を取っている」「背が高い」という前提があれば文字通りの意味を表すことになる。英文法の指導では、このことについてあまり強調されていないように思われる。

(8) Tom is old. He is as old as your grandfather.

(9) Mary is tall. She is as tall as her father.

◆配分単数

「第13章 名詞」p. 372に次例があり、smartphone は単数でも複数でもよいという解説がある。

(10) All the students have their own smartphone(s). (学生はみんなスマートフォンを1台ずつ持っている)

ここでの単数形の smartphone は配分単数と呼ばれるもので、「それぞれの学生に1台ずつ」という意味を表している。スマートフォンは常識的に1人1台であるから、単数にすると考えがちだが、むしろ複数形がふつうというのは意外に思う人もいるかもしれない。次の場合も同様。

(11) They nodded their head(s). (彼らは一様に了承してうなずいた)

◆接触を表す動詞の取る構文

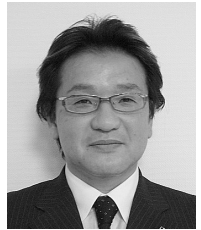
「第14章 冠詞」p. 381には接触を表す動詞は、① She hit me on the head. のような構文を取るだけでなく、② She hit my head. という言い方も可能という記述がある。そして、①は「なぐられた人」に、②は「なぐられた部位」に焦点を当てた表現という説明をしている。

さらに詳しく言えば、一般に、①は主観的な表現で、目的語の人に対する何らかの感情を交えた表現であるのに対して②は客観的な表現ということになる。本書に挙げられている She patted Bob affectionately on the head. (彼女はボブの頭をやさしくなでた) の例もこのような観点から眺めるとさらに理解が深まることだろう。

(かしの けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授)

自然な例文を求めて

——例文検討会議の現場から



中邑光男

生徒が『ジーニアス総合英語』の文法項目の説明を理解したとしても、その項目を英文の中で認識できないのなら、またその文法知識を使って英文を作れないなら、本物の文法力を身につけたとは言えない。総合英語において、例文は、生徒の文法知識を定着させる「かなめ」である。

『ジーニアス総合英語』の例文の多くはG5に基づいたものだ。しかし、G5の用例を日本人とネイティブスピーカーが徹底的に話し合い、必要に応じて、高校生の学習により役立つように変更したものもある。

『ジーニアス総合英語』の例文は全て、この話し合いを経て作り込んだものだが、本稿では、4つの表現を取り上げ、例文検討会議の様子をお届けする。なお、本稿の[JE]は日本人の編集者(Japanese Editor)を、[AE]はアメリカ人の編集者(American Editor)を指す。

■ learn to do と「～するようになる」

[JE] 「第7章 不定詞」では learn to do を取り上げていますが、He **learned to like** the dog. (彼はその犬が好きになった。) という例文はどうでしょう。

[AE] この文には「最初彼はその犬が好きではなかったが、なんとか努力した結果、やっと好きだと言えるようになった」というニュアンスがあります。「彼はその犬が好きになった。」という和訳はそのニュアンスを十分に表していますか。

[JE] 十分とは言えないかもしれません。この文はG5の用例です。G5では語義が詳しく、他の用例

もあるためにこの文のニュアンスがわかるのですが、『ジーニアス総合英語』ではニュアンスを丁寧に説明し、例文も高校生にとってポイントがより分かりやすいものに代えましょう。learn to do の意味を、to の後ろの動詞を状態動詞と動作動詞との場合に分け、例えば、状態動詞なら「(努力して [経験を積んで]) ～するようになる」と示すのがいいと思います。

[AE] では、例文は He has **learned to be** patient. (彼は忍耐強くなった。) でどうでしょう。

[JE] それはいいですね。彼には忍耐強くならなければならない事情があり、がんばってそうになった、という意味ですね。

■ as soon as possible と as soon as S can

[JE] 「第10章 比較」の〈as+原級+as possible [S can]〉の例文候補は、He put forward a proposal **as soon as possible**. (彼はできるだけ早く提案を提出した。) です。

[AE] この文で as soon as possible は使えません。as soon as possible は現在や過去から見た未来のことに使うからです。過去については as soon as S could や as soon as was possible と言います。

[JE] G5の用例を見ると、as soon as possible は「至急」という意味、as soon as S can は「できるだけ早く」の意味で、必ずしも同じ意味を表すとは言えないようです。例文を変更しましょう。

[AE] John parked **as far as possible** from the road. (ジョンは道路からできるだけ離れた所に車を停めた。) はどうでしょう。... as far as he could

from the road. もほぼ同じ意味を表します。

JE いいですね。それを例文にしましょう。ただし、今日話し合った as soon as possible と as soon as S can の意味の違いは非常に重要です。「注意」としてその点を明記したいと思います。

■ What is the matter with you? と「どうしたのですか。」

JE 「第19章 前置詞」では、with が持つ「関連」の意味を What's the matter **with** you? (どうしたのですか。) という定番の表現で示したいと思っています。with you は「あなたに関して」と訳すことができるので、生徒にも「関連」の意味だと分かりやすいでしょう。

AE 賛成です。ただし、with you があるとないとでは、ニュアンスの違いがあることにも触れるべきだと思います。

JE 確かにこの文では with you がないことが多いですね。昨夜テレビでアガサ・クリスティの *Curtain* を見たのですが、“What's the matter?” と言っていました。with you はつけていませんでした。

AE What's the matter with you? と言うと、ふつう、話し手がイライラして、「どうかしたの。」「何考えてるの。」と言っている響きがあります。

JE 反対に、話し手が聞き手への気遣いを示すために、with you をつけることもありますね。イライラして言う場合のほうが多いと思いますが。

この表現は教科書などでもよく出てくるので、with you のニュアンスを詳しく説明しましょう。例文を What's the matter (**with** you)? とし、「with you をつけると話し手のいらだちを表すのがふつうだが、時に気遣いを表すこともある」と書き添えることにします。

■ his willingness to work と he is willing to work

JE 「第24章 名詞構文・無生物主語」には

「〈SVC〉の内容を表す〈所有格＋名詞〉」というポイントがあります。これの例文候補として He has **shown his willingness to work** with us. が挙がっています。この文が He has shown that he is willing to work with us. とほぼ同じ意味を表すと説明するわけです。

AE でもその2文のニュアンスは少し違うと思います。

JE そのニュアンスの違いはどこから生じるのでしょうか。

AE willingness と willing の違いからだと思います。show his willingness to work は、彼の働く意思がある程度強いことを表していますが、He has shown that he is willing to work with us. では彼の意思がそれほど強くないように聞こえます。

JE *LDOCE* は willingness を the state of being prepared to do something と定義し、willing を prepared to do something, or having no reason to not want to do it と定義しています。willing の定義の後半を見ると、確かに willingness のほうがしっかりとした意思を表すように見えます。これが名詞と形容詞の一般的な違いを表しているのか、それとも show willingness というコロケーションのためなのか、興味深いですね。

日本人が英文の書き換えを考える時に、このようなニュアンスの違いを考えるだけの余裕はないでしょうが、無批判に「書き換え公式」に従うことの危険性は意識するべきですね。

この文を、He showed **his eagerness to work**. (彼は働こうとする熱意を示した。) にしましょう。eager も eagerness も強い熱心さを表すので、He was eager to work の内容を his eagerness to work と表現できると思います。

AE 賛成です。

(なかむら みつお・関西大学教授)

現場教員の観点から 『ジーニアス総合英語』のここを推す

4 技能育成を意識した 文法書



加藤治之

アクティブラーニングを重視する施策のもと、現在、高校英語教育にはディスカッションやディベートを通じて「交渉能力」を身につけさせることが求められつつあります。それ自体は結構なことですが、文法指導に割ける授業時数が減ってきているのも事実です。このような時代の文法参考書はどうあるべきか、2点に絞って考えてみます。

1. 生徒の自主的学習を促すものであること

このためには、生徒が学習しやすい適切な文法項目の配置と説明の readability が求められます。

2. 言語事実を反映していること

廃れてしまった表現の指摘・排除だけではなく、学習項目がどのような場面で使用されるのかについての説明も必要になってきます。

では、『ジーニアス総合英語』は上記2点にどのように応えているのでしょうか？

1. について

全24章中、授業で特に丁寧に取り上げられるべき12章がすべて前半に配置され、かつ BASIC と ADVANCED に分かれています。第13章以降の後半は、授業で必要

に応じて扱われるべき項目です。BASIC には多用される必須項目、ADVANCED には表現の幅を広げる項目が配置されています。必ずしも前者が易で後者が難という単純な分け方ではありません。

readability については紙面をご覧くださいのが手取り早いので、ここではコラムを2種類だけご紹介します。

◆ Question Box

(例) must not が「禁止」、don't have to が「不必要」を表すのはなぜ？ (p. 125) → 否定の作用域に関わる疑問に易しく答えています。

◆ 比べよう！

(例) I forgot. / I have forgotten. / I forget. の違い (p. 97) → 過去形と現在完了形、現在形の根本的な違いに基づいて明快に述べています。

2. について

一例を挙げます。従来 cannot but do と cannot help doing は同列に語られてきましたが、前者は「古い言い方」(p. 579) です。また、同じページにある使用場面の説明や例文から、例えば「タクシーを拾わざるをえなかった」に I couldn't help taking a taxi. は適切でないこともわかるでしょう。

最後に一言。文法学習は文構造や語形だけを理解して終わるものではなく、それに個々の語の意味・語法を重ね合わせてはじめて血の通ったものになります。この意味で、最新の言語事実を提供してくれる『ジーニアス英和辞典』

をバックボーンとして生まれた『ジーニアス総合英語』は、高校生が文法を習得するための良きガイドとなるはずです。

(かとう はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校教諭)

文法コア解説やコラム が充実！



吉田健三

1. 文法項目のコアが簡潔明快

英単語の意味を理解し、記憶するのはに接頭辞、接尾辞、語根などの知識が有効ですが、文法項目においても、それぞれのコアの意味を知っていれば、英文の理解や表現にとっても役立ちます。

たとえば、学習者がよく躓く^{つまづ}のが、日本語の「～た」にひきずられて誤用する過去時制と現在完了形との使い分けや、能動態と受動態を機械的に置き換える不自然な英語表現です。

本書では、文法項目のコアの意味が簡潔明快に説明されており、上記のような誤解もすぐに解決できます。

・完了形は時間を線に見る。過去形が表すのが点なら、現在完了形が表すのはいわば線である。現在完了形は現在形 have/has を使うことから、実際は現在形の一つである。過去を表すのは過去分詞の部分である。つまり、現在完了形は「過去に起こったこと (= 過去

分詞の内容)を今も持っている(have/has)」ということを表す。過去から現在につながる時間軸が線のようにとらえられている。

・能動態と受動態は、伝える出来事は同じだが、伝える重点の置き所が異なる(旧情報・新情報と話の流れに着目して区別する)。

ほかに、「不定詞は未来志向である」「動名詞は「動詞+名詞」「分詞は形容詞の働きをする」「比較では、比較対象と比較基準が重要」「冠詞は特定できるかどうか」「前置詞にはイメージがある」等々、これさえ押さえておけば文法の理解が格段に深まる、という明快な解説が魅力です。

2. 100のコラムが充実

Question Box, コミュニケーション・リーディング・ライティングのコツ、比べよう!、英語の発想、といったコラムが充実し、読解や表現を助けるだけでなく、英語への興味を高めてくれます。

・pleaseと「～してください」(×Please go straight and turn left at that corner. 不可の理由は本書を参照してください, p. 41)

・Does he speak English or Spanish? の意味は2通り?(A:話し手の前提が決め手, p. 39)

・① There was nothing to do. と② There was nothing to be done. の違いは?(A:①は「何もすることがない」②は「手の打ちようがない」, p. 200)

・The book sold quickly. のsoldはwas soldでなくてよい?(A:受動態が事実を述べるのに対して、能動態の方は「動詞+副詞」で表される内容を実現できるだけの「潜在能力」が主語にあることを表す, p. 162)等々。

『ジーニアス総合英語』は、英語の初学者から上級者まで幅広く、学んで楽しめる参考書です。(よしだ けんぞう・神戸大学アドミッションセンター特命准教授)

今求められる「総合英語」の役割



富永 幸

現行の学習指導要領が導入され、4技能を統合的に指導する授業が本格的に始まって5年目となります。文法はコミュニケーションを支えるものである、という認識は定着してきている一方で、実際に使用する場面とリンクさせた文法指導は、いまだに悩ましい部分です。豊富なコミュニケーション活動、使用場面に応じた適切な表現の使い分け等、文法指導において考慮すべきことが変化しています。同様に、「総合英語」は、ターゲットとする文法の「機能や働き」に着目し、実際の使用場面を想定した解説を通して、学習者の表現力の涵養を支援することが求められています。

『ジーニアス総合英語』では、本文はもちろんのこと、各章のINTRODUCTIONや100項目のコラムでも、「形」だけではなく「機能や働き」に注目した解説にこだわりました。例えば、助動詞の章のINTRODUCTIONでは、「文法的な働きをするものと、話し手の気持ちや判断を付け加えるものとの2種類がある」としたうえで、「話し手の気持ちや判断を表す」という機能を具体例を挙げて説明しています。Question Boxで、「日本語を話せますか。」

と尋ねるのに“Can you speak Japanese?”ではなく“Do you speak Japanese?”の方がよく使われる背景を、前者は「あなたは日本語を話せないといけない」という意味合いを持つてしまうからだと解説しています。これも助動詞が「話し手の気持ちや判断を示す」からこそコミュニケーションにおいて注意しなければならない点です。

形だけに注目することによって生徒が誤解しがちな点についても、丁寧な説明を心がけました。例えば、仮定法といえばif節から始まるものという思い込みからif節のない仮定法を苦手とする生徒は多いのですが、仮定法の章のINTRODUCTIONでは、「<仮定法=if>ではない」としたうえで、「事実と反することを心に思い描く場合」が仮定法だと述べています。さらに、仮定法過去において過去形を使う理由として、過去形は現在からの「時間的な距離」を感じさせるものであり、仮定法過去の場合は、「時間的な距離」を表す形が「現実からの距離」を表す役割を担い、現在の事実から切り離された事柄を表すのに過去形が使われると述べられています。

こうした「形」の背景にある「機能や働き」の理解と豊富なコミュニケーション活動が両輪となってこそ、学習指導要領が目指す「表現力」の涵養が実現するのだと思います。文法指導についての悩みを先生方と共有する教員の一人としても、『ジーニアス総合英語』が授業作りのパートナーとなることを大いに期待しています。(とみなが みゆき・滋賀県立膳所高等学校教諭)

『ジーニアス総合英語』は こうして生まれた

編集部



この秋、『ジーニアス総合英語』が満を持して登場します。既に見本本をご覧になった先生もいらっしゃると思いますが、いよいよ正式に刊行され、書店にも並びます。

■文法版「ジーニアス」

英語学習の二本柱は「語彙」と「文法」でしょう。語彙の面では『ジーニアス英和辞典』が学習者を支えてきましたが、小社は学習用の文法書は出していませんでした。これからは『ジーニアス総合英語』が文法版「ジーニアス」として学習者を支えられることをうれしく思います。

実のところ、『ジーニアス英和辞典』にも文法の情報は多く載っています。例えば、助動詞の can には約2.5ページ、will には約2ページ、may や must にはそれぞれ約1.5ページの紙幅が割かれており、いずれも相当の情報量です。また、be を引けば、進行形や受動態、be to などに関する詳しい情報を得ることができます。

しかし、単語をアルファベット順に並べる辞書では、文法事項について体系だった説明をすることは困難ですし、動名詞・分詞や基本時制など、扱える見出しが存在しない文法事項がいくつかあります。文法のことは辞書でなく文法書で調べるという学習者も多いでしょう。

『ジーニアス英和辞典』の有益な文法・語法情報を文法書という形で学習者に示す必要があるし、示したい——これが『ジーニアス総合英語』を刊行することになった大きな理由の一つです。

■編集委員と形式上の方針

総合英語の分野に新規参入するにあたっては、「とにかくよい本を作る。そのために『ジーニアス英和辞典』のエッセンスを注ぎ込む」と考えました。主幹を含む編集委員チームには、『ジーニアス英和辞典』から中邑光男先生、柏野健次先生、富永幸先生、英語表現の教科書 *Departure* から山岡憲史先生、加藤治之先生、吉田健三先生に入っていました。さらに、主に英文校閲担当の北野マグダ・レーナ先生、駿台・河合塾・東進の講師を経て現在は代々木ゼミナールの福崎伍郎先生などもメンバーです。ちなみに、福崎先生は、そのキャリアを活かし、『ジーニアス総合英語』の講義動画（購入特典）の講師を務めてくださいます。

『ジーニアス英和辞典』のエッセンスを注ぎ込むと言っても、もちろん、辞書の記述をそのまま移すことはできません。解説の内容以外については、次の方針を定めました。

- ・わかりやすい文章にする：辞書は紙幅の都合により非常に簡潔な記述が求められます。総合英語は主に高校1年生が読むことから、具体的に理解しやすい文章にすることを心がけました。
- ・読みやすい紙面にする：囲みや色を多用するとむしろ読みにくいと考え、紙面はシンプルにしました。また、検索の便を考慮し、小見出し付きの2段組としました。
- ・使いやすい目次立てにする：現場の先生方の使いやすさを考え、目次立てでは独自性を出さず、オーソドックスなものにしました。

■発信のための情報に富む中身

さて、肝心の中身ですが、コミュニケーションのための英文法、4技能のベースとなる英文法という観点から、高校生にとって必要十分な情報が盛り込まれています。その情報は、発信用辞書である『ジーニアス英和辞典』に基づいていて、正確です。例を2つ挙げてみましょう。

(1) Will you ...? と Can you ...?

Will you ...? も Can you ...? も「依頼」を表すという説明はどの本にもあります。受信にはそれだけで事足りるでしょう。しかし、発信を想定するなら、2つの表現の違いを押さえていないと、どちらを使えばよいかわからず困るはずです。『ジーニアス総合英語』は Would you ...?, Could you ...? も含めて違いを記しています (p.131)。

中邑先生が「ジュース1杯」がカップ1杯なら a glass of juice でなく a cup of juice と言えるという注記をつけたと本誌 p.18 に書いておられますが、これにしても発信を想定していることの一例です。そういう記述が『ジーニアス総合英語』にはたくさん載っています。

(2) may, might, could と can

may, might, could は現在や未来に関する「具体的な可能性」を表します。しかし、can は肯定文で「具体的な可能性」を表すことはできません（疑問文・否定文では可能）。M. Swan の *Practical English Usage* の第4版 (2016) に次のような説明があります（第3版にもありました）。

chances: may / might / could

We often use *may*, *might* and *could* to talk about the chance (possibility) that something will happen, or is happening.

Can is not normally used to talk about the chance that something will happen or is happening.

『ジーニアス総合英語』は、柏野先生の記事（本誌 pp.22-23）にもある通り、正しい情報と適切な例文を載せています（pp.116-117, pp.120-

121）。これは細かい情報のように思えるかもしれませんが、発信を想定すると決してそうではないとおわかりいただけるでしょう。

■『ジーニアス総合英語』の完成まで

このような類書にあまりない説明を入れるにあたっては、多くの議論を経ました。辞書編集でもそうですが、英語の使用実態をそのまま示せばよいというわけではなく、規範的な立場に立ったり日本の英語教育の事情を勘案したりする必要があります。そのあたりのバランスには非常に気を遣いました。編集委員の半分は、高校現場での指導経験がある先生方です。一歩進んだ説明は、主にコラムや注記で扱いました。

類書と同じような説明の一つ一つについても、従来通りでよいかという吟味をしたため、『ジーニアス総合英語』にかかった時間や手間は並大抵ではありません。編集会議を何回も開き、原稿は何度も書き換えていただきました。校正刷り（ゲラ）の形になってからも修正を重ねました。間違いを正しくするためというよりむしろ、より適切でわかりやすい説明にするためです。

編集期間の後半の数か月間は、編集部員が編集主幹の一人と電話で質問や確認のやり取りをするのが文字通り日課となりました。別の編集委員には、やはり質問・確認のための長文メールを、頻繁に送り、回答をしていただきました。

そのようにしてようやく完成した『ジーニアス総合英語』です。ぜひとも手に取ってご覧いただければと思います。



福崎伍郎先生（『ジーニアス総合英語』編集委員／代々木ゼミナール講師）による講義動画の1コマ

実践例で学ぶ 第二言語習得研究に基づく英語指導

鈴木 渉 編

A5判・218頁
本体1,800円＋税

[評者]
小林英治



コミュニケーションと文法指導の英語の「融和」

政、官、財の要請を受けての英語教育政策の変化に現場の教師は翻弄され、日々教室で苦悶し奮闘している。このような背景の中でできたコミュニケーション能力の育成を掲げる英語教育の潮流は、伝統的に行われてきていた文法訳読式指導法を退けた。文法指導や授業で母語を使用する場面では教師は幾分、罪悪感を持ちながら指導にあたるようになった。

文法指導については明示的な指導と暗示的な指導のせめぎ合いが続く。文部科学省は「外国語習得の過程は、曖昧さに耐えながら、コミュニケーションの経験を通して曖昧さを徐々に減じていく過程だ」とコメントする。一方で本書は、「コミュニケーション活動の中で、言語形式に注意を向けさせる指導を行うことが、単純に意味だけを重視する活動よりも、学習効果が高い」(p.8)と述べる。

本書は教室内第二言語習得研究(ISLA)の視点から、現場の教師が時には経験則で判断し実践する英語の授業を理論的に後押しする。

新学習指導要領では中学校でも「英語の授業は英語で」と明記されるが、本書では中学校の授業で

は母語の効果的な利用について言及する。教師にとっては悩ましい、パフォーマンステストについても実施法や評価について詳しく記載されている。授業の導入で行う小テストにも絶妙の見取りとタイミングを助言している。

現場の教師に、これまでの指導はそれほど間違っていないかった、理論を踏まえたうえで微調整すればよい、第一言語(日本語)も時には効果的に使用すればよい、といった温かいトーンで語られているようである。

本書は以下の13章から成る。1章は文法指導の変遷、2・3章はインプット強化と処理指導、4・5章はフィードバック、6章は効果的なタスクの活用、7章はペアやグループ活動での指導法、8・9・10章は発音指導、語彙指導、語用論指導、11章は学習者の見取りとコンテクスト、12章では評価について、13章はまとめとしてフォーカス・オン・フォームについて触れている。各章ごとに理論の解説の後に中学校、高等学校それぞれの授業における理論に合った授業実践例が記載されている。

編者が中心となって招聘された国内外の著名なESL研究者による講演会では、常に校種を問わず数多くの教師が参集して現場で英語の授業をする際のつまずきや悩みが共有されてきた。本書はこれらの声に耳を傾け、変化多き英語教育の現場で時として戸惑い、指導法を模索する教師に寄り添いながら語られている。私には教室で思い悩む英語教師への温かい言葉が随所で響きわたっているような気がする。

(こばやし えいじ・山形県立東桜学園中学校・高等学校教諭)

タスク・ベースの英語指導

TBLTの理解と実践

松村昌紀 編

A5判・272頁
本体2,500円＋税

[評者]
柳瀬陽介



広汎な情報を凝縮した知恵があなたの授業観を変える

「タスクベースの英語指導」(TBLT: Task-based Language Teaching)と言われても、特に興味を抱かない方も少なくないかもしれない。なにせ、小中高のほとんどの授業は、言語的目標の提示と定着という構造をとっているからだ。いわゆるPPP(Presentation-Practice-Production)である。大学のシラバスを見ても、TBLTはほとんど見当たらない。「TBLTは海外のもの。日本ではPPP」というのが日本の英語教育界の「常識」なのかもしれない。

しかしもし日本が世界の中でおそらく「英語教育にもっとも熱心な国」であると同時に「学習者をもっとも英語下手な国」であるとしたらその「常識」を疑うことも必要だろう。ぜひ本書を手にとってほしい。

理論編の第1部と実践編の第2部から構成された本書は、TBLTについて系統だった理解が得られるように編まれている。だが、もしあなたがTBLTについて否定的な見解をもっていたり、ほぼ何の知識もなかったとしたら、第2部(実践編)の最初の第5章から読み始めるといいかも

しれない。特に表5.1の「タスクのタイプと例」に注目したい。授業に創意工夫を凝らしている教師なら「これはやっている」、「これならできる」と思える活動が次々に頭に浮かぶだろう。そして続く第6～8章で小中高大の実践についてより具体的に学ぶ。それから第1部（理論編）の第4章を読みTBLTについての懸念や疑問を解消すれば、TBLTは自分とは縁遠いものとはとても思えなくなるだろう。

しかし本書の真価はここからだ。TBLT実践についてのイメージをもった上で、本書冒頭章の第1章と最終章の第9章をぜひじっくり読んでほしい。日本の英語授業は「教室の中のゴール」を目指すことだけに終始していないか、英語教師の指導と評価は「自己完結の檻」に閉じ込められていないか、ことばの習得とは本来「楽しみながら自然にできるようになっていくこと」ではないか——これまで一顧だにできなかった考えにあなたは新しく深い意味を見出すだろう。その上で第2～3章でTBLTの応用言語学的・教育学的考察（文献情報がすばらしい）を読む。その頃には、この本はあなたの英語授業を根底的に変えてくれる記念的な書となっているかもしれない。

常識を疑い、より真実に近づくことは容易なことではない。それには、広汎な情報を凝縮した知恵が必要だ。編著者の前著である『タスクを中心とした英語授業のデザイン』と共に、本書を授業に関する具体的で深い思考に導いてくれる良書として多くの実践者・研究者に心からお薦めしたい。

（やなせ ようすけ・広島大学教授）

実例でわかる 英語テスト作成ガイド

小泉利恵・印南 洋・
深澤 真 編

B5判・176頁
本体1,800円＋税

〔評者〕

江草千春



これからのテスト作成・評価・検証・改善に大切な実践ガイド

教育現場では、アクティブラーニング、カリキュラムマネジメント、高大接続改革などのキーワードをよく耳にする。また、英語科においては、小学校における英語の教科化、センター試験に変わる大学入学共通テストにおけるリーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの4技能をどのように適切に評価するか、ということが話題に上がっている。

そのような趨勢の中で、本書は、変わる授業、変わる入試に対応するテスト作成について、テスト実例の添削を通して改善方法を具体例で示しつつ、テスト作りで知っておきたい理論をわかりやすく解説している。

本書は、以下の3章から構成される。第1章は〔テスト添削編〕。テストをどう改善するかを学ぼう、第2章は〔理論編〕。テスト作成に必要な理論を学ぼう、第3章は〔演習編〕。テストを一から作ろう、である。

第1章では、中高で実際に使用されたテストについて4技能別に添削前と添削後の2パターンを示し、どのように改善すればより適切な能力を測定するテストになるか、あるいは、より適切な指示文

になるかについてポイントを解説している。

第2章では、テスト作成の原則、実施時の注意点、テスト形式、テスト実施後の注意点についてわかりやすく解説している。とりわけ、観点別評価・CAN-DOリストとの関係、技能統合型テスト、PDCAサイクルによるテスト結果の生かし方については、よりよい学校評価・経営を進めていく上で今後、ますます重要な項目であり、一読に値する。

第3章では、4技能別、そして、技能統合型テストについて作成例が紹介されている。ここでは、予想される対話例・解答例だけではなく、採点基準であるルーブリックが記載されていて、なおかつ採点例についても得点ごとに詳細が記述されている。そのため、教師が採点に困ったときのヒントとなり、生徒になぜそのような採点となったかについての説明責任を果たすことができる。

いずれにしても、少しずつ改善はされてきている部分がありながらも、いまだに定期テストでは、能力を包括的に測定しようとする総合問題が散見される。本書は、これからの変革に備えて現場の教師がどのように対処していけばよいかの指針を示した示唆に富む1冊である。日々のテスト作りの参考書としてだけでなく、校内研修にも大いに活用ができる。また、大学の教職課程における講義の教科書の1つとしても十分活用できる素晴らしいガイドであることは言うまでもない。

（えぐさ ちはる・北海道湧別高等学校教諭）

大修館書店の本

◆ポカホンタスからトランプまで、人物に焦点をあて、いきいきと描くアメリカ史

列伝アメリカ史

松尾式之＝著

(四六判・322頁・本体2,300円＋税)

◆これも1つのコミュニケーション

街の公共サインを点検する——外国人にはどう見えるか

本田弘之・岩田一成・倉林秀男＝著

(四六判・216頁・本体1,800円＋税)

◆英文をどこまで深く読めるか？

続・本格派のための「英文解釈」道場

筒井正明＝著

(A5判・224頁・本体2,000円＋税)

◆「間違い」ではなく「変化」。

敬語は変わる——大規模調査からわかる百年の動き

井上史雄＝編

(四六判・298頁・本体2,300円＋税)

◆センター試験分析に基づく新しい文法指導の提案

英文法、何を重点的に教えるか——大学入試分析を授業に活かす

佐藤誠司＝著

(四六判・320頁・本体2,300円＋税)

営業便り

▶昨年の秋に大阪から金沢に転勤し、社会人になってから6回目の引っ越しをしました。北陸3県は、日本海側に住んだことのなかった私にとって、とても魅力的です。北前船の寄港地・立山連峰・白山・能登半島・越前岬……。それは外国の方たちにとっても同じようで、例えば金沢の街を歩いていてもとても観光客が多いです。それもヨーロッパ系。小さな子供連れの家族が多く、新幹線に乗り合わせると、子供がじっとしてられないからか、客車の中を親が後をついて歩かせています。▶ある時、新幹線の中で子供が近づいてきて満面の笑みでこちらを見ているので、つい「ハロー」と言ったら、車内中が私の次の言葉を待っているような雰囲気になり、プレッシャーを感じました。▶なぜ日本語で話しかけなかったのか。「イージー・ジャパニーズ」作戦があったのに。英語で始めたのが失敗だったのか……。いやいや、そんなことはないはずです。冷や汗の出た一瞬ではありましたが、自分にとっては、コミュニケーションについて考えるきっかけとなった一瞬でした。



(大阪支店 古賀一範)

編集後記

▶最近では邦画のDVDにも多言語字幕付きのものが多く、これが結構楽しめます。▶例えば高校生が主役のアニメ、『君の名は。』の出だしの印象的なモノローグ、「朝目が覚めるとなぜか泣いている。そういうことが時々ある」。英語でどう言うのかと字幕をみると“Once in a while when I wake up, I find myself crying.”なるほど！『ベーシックジーニアス英和辞典』で「[find A C]A<人・物>がC<状態>であることを(偶然)見つける、…に気づく<◆Cは形容詞・分詞など>」とある、この表現が使えんですね。▶その次の「見ていた夢はいつも思い出せない」は“The dream I must have had I can never recall.”となっています。「<must have+過去分詞>[～したにちがいない]」を意味し、『過去の事柄に対する現在の確信のある推量』を表す」(『ジーニアス総合英語』)を採用した日本語解釈力に脱帽です。▶日本文化を英語でどう簡潔に紹介するかのヒントにもなります。邦画で英語学習、お勧めです。(穂)



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、ご感想などを小社編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

Genius・Compass・Departure

英語通信

第60号

2017年10月10日発行

(年2回発行)

編集人：「G.C.D.英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2292(編集部)／(03)3868-2651(販売部)

【出版情報URL】<http://www.taishukan.co.jp> [振替] 00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕